



道場風景



ある日の練習のあとで



打ち上げで先輩や先生方と

●モットーは「日々の精進」

我々、東亜大学剣道部は「日々の精進」をモットーに連日稽古に励んでいます。わが東亜大学は、開学二〇年で、剣道部としての日も浅いのですが、その歴史をきずくために、皆で力を合わせてがんばっています。

創部当初は、少人数で練習場所も整っておらず、部というには程遠い状態だったので、先輩方の努力によって、徐々に剣道部として確立していき現在に至っています。

●外との交流もさかん

地元下関の先生方をはじめ地域の剣士達とも剣を交えるなど、大学にとどまらず部員は剣道に親しんでいます。

大学内では、部として大学祭にも積極的に参加し、毎年好評を得ています。また、ソフトボール大会等のスポーツ大会においても部員同士結束し、参加しています。そうしたわけで、他の部との交流も盛んです。

●稽古のあとも楽しみ

日々の稽古は、時間こそ短いものの、各自一人一人が目標を持って練習に励んでいます。稽古内容は、切り返しに始まり、基本稽古、掛かり稽古、地稽古を行ない、ときには、試合稽古を取り入れています。夏休みなど長期休暇に入った時などは、特別な合宿といったものは行なわず、午前・午後の二部練で稽古しています。また、下関市立大学や小月航

竹刀で語る、友との絆

東亜大学剣道部歌

面と小手との火花の中で

燃ゆる男の心意気

ぐっと睨んで上段とれば

天下・宇宙は俺のもの

俺のもの



夏休みの稽古で



部旗「平常心」

昭和50年	利夫 康司 良史
部 長	坂井 上寺 青原 22名
部 員	範 長 問 将 務 数
創 師	部 顧 主 主 部 員 数

空自衛隊の方々との練習試合、合同稽古も盛んに行なっています。

ときには、部員同士で酒をくみ交わしたり、ボーリングに行ったり、カラオケをしたりと厳しさの中にも楽しさがあります。試合・行事後の打ち上げの時には、先生も一緒になつて楽しんでいきます。

●もう一つレベルアップに挑戦

我が剣道部には、師範の坂井年夫範士八段、部長兼監督の上寺康司五段の両先生の御指導により近年徐々に結果が開始されました。昨年の北九州・下関地区インカレでは、個人・団体共に優勝し、今年も三位に入賞、そして今年の中四国学生剣道大会においては、創部以来初のベスト8入りを果たしました。これからは、もう一つ上のレベルへの挑戦するために日々修練しています。

ただ、無理に背伸びするのではなく、先に述べたように「日々の精進」の言葉どおり、一日一日を大切に練習に励んでいきます。



部旗・創部まもないころの先輩が寄贈してくれたもの

- ・創部 昭和30年～33年の間
- ・部長 馬場 紀臣
- ・師範 堀江 幸夫
- ・監督 柏原 浩
- ・主将 藤田 将光
- ・副主将 小川 仁美
- ・主務 金本 博隆
- ・会計 木村 秀孝
- ・企画 田中 泰貴

平成6年8月現在 部員数49名



毎年阿波踊りには徳大剣道部「剣思連」として参加



追い出しコンパ。卒業生との別れを惜しみつつ飲みまくる



追い出し貫歩。卒業生と暗い道を語りながら歩き通す剣道部の伝統行事



練習は基本打ちと稽古に力を入れる

徳島大学剣道部は、常三島地区、蔵本地区ともに稽古に取り組んでいます。

まずはじめに、私たち剣道部の活動の様子を振り返ろうと思い、「朝練」の話聞くことにしました。

●足がふるえた朝練のこと

十数年前の「朝練」の様子について、ある先輩から話を聞くことができました。当時は、機動隊の「朝練」に、週四回参加していたそうです。道場に行くまではあまりの怖さに足がふるえたそうです。そして、機動隊の人の車の数を見て「今日もおわたたな」と思っていたそうです。練習も激しく、二〇〜三〇分間の懸かり稽古を行っていたそうです。しかし、その先輩は、「この稽古のおかげで、礼儀や基本を身につけることができた」と話

稽古はもちろん、 イベントも一生懸命！



部員集合（蔵本地区）



部員集合（常三島地区）

してくださいました。

現在はそんなことはありませんが、味わい深い話を聞かせてもらうことができました。

●阿波踊りにも参加

つぎに、私たち剣道部のさまざまなイベントについて紹介しようと思います。

春には、桜の木の下での花見や、新入生歓迎のコンパを行なっています。

夏はもちろん阿波踊りとOB会です。阿波踊りは、剣道部で連をつくり参加しています。OB会では、先輩との試合や懇親会を通して、現役部員とOBとの交流をはかっております。

秋には、「眉山杯」（徳島県内大学の個人戦）を行い、その後に、懇親会を開き、他大学と交流しています。

冬は、卒業生追い出しコンパと貫歩があります。「貫歩」というのは、卒業される先輩たちと語り合いながら、長くて暗い夜道を歩き通すというものです。

●部報「剣」の発行

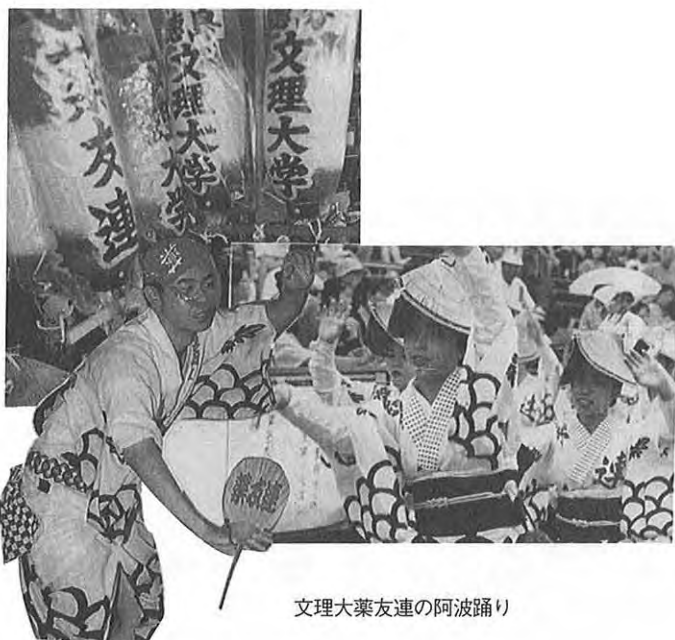
また、私たちは年二回、部報「剣」を発行しています。この文集中では、普段は分からない、部員のもの見方や考え方を知ることができます。部報「剣」を通して、部員の相互理解に役立てています。

「稽古はもちろん、イベントも一生懸命」

これが徳島大学剣道部のセールス・ポイントです。



壁、乗り越えてこそ 真の和



文理大薬友連の阿波踊り

わが徳島文理大学剣道部は昭和四八年に創設されました。当初は女子部のみでしたが昭和五二年からは男子部もでき、現在まで二一年間の歴史を創りあげてきました。

●OB会は百名以上

その歴史の一つであるOB会組織については、徳島市にある山・眉山にちなんで『剣眉会』と名付けられ、現在一〇〇名以上の会員数で活動しておられます。活動のメインとなる年一回のOB会では、年齢の差を剣に交え、現役大学生と恒例の紅白戦で汗を流しておられます。

●合同稽古で汗流す

現役達はと言うと、勝沼師範・野間監督・岡本コーチの御指導のもと、学園創立一〇〇周年に負けない伝統を創りあげるため、日々稽古に励んでいます。

大学が徳島校・香川校とに分かれているため毎日一緒に稽古をすることはできませんが、合同稽古という場を持ち、剣を交え稽古を共にし、お互いの力を高め、また交流も深めています。

●飲んでばかりもいけない

年間を通しての主な剣道部の行事としては、まず五月には新入生歓迎コンパがあります。入学式を終え、大学生活にも慣れた頃、在学生には楽しみで、新入生には恐怖のコンパ。酒豪・勝沼師範を筆頭に夜のネオン街を練り歩く。時には脱落者もあり…。(本年度は約一名)飲んでばかりもいけない…。と、大学が徳島・香川に分かれているため、両校の合同稽古も行ないます。しかし、稽古ばかりもしてられない。

六月には定期戦があり、またまたハメをは

二県にまたがる距離の

・創部 昭和48年
・師範 勝沼 信彦
・監督 野間 義明
・部長 宮高 透喜
・コーチ 岡本 茂
・主将 東浦 利行
・副主将 泉 憲政

・主務 田村佳世子
・幹事 渋谷 瑞江
・会計 小川 綾子
・部員数 男18名 女21名
・OB会組織 『剣眉会』
 会員数約100名
 (平成6年8月現在)



徳島校と香川校にわかれていてもチームワークはバッチリです

ずし、一年生の度胸が試される。しかし、飲んばかりもいられない。夏はやってくるのだ。

●徳島の夏はひときわ暑い

ところで、徳島の夏といえば、忘れてならないのが阿波踊りです。リズムは二拍子。おなじみの「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃそんそん」のおはやしは、見ている人も自然と踊りの輪にとけこめる楽しさです。この日ばかりは、徳島市の人口は三倍に。わが文理大学の薬友連も有名です。市内一円が踊りの渦に巻き込まれる四日間。まるで興奮のつぼ。徳島の夏はひときわ暑い。

この阿波踊りのある八月には、中四国優勝大会に向けての合宿が始まり、例年のごとく台風もやって来る。最終日の花火大会&打ち上げでさらに両校の交流を深め、楽しくしめくくるのです。

一〇月。優勝大会の結果はさておき、夏休みも終わり、秋が来ると大学祭の季節。学祭では一年生男子が大活躍。女装でうどんを売る姿はなかなか笑えます。

一二月には新人戦。その後には、またまた夜のネオン街へとくりだす行事がやって来ます。四回生、短大二回生を主賓にしての、追いだしコンパでの飲み会。さて、また脱落者がでるのかどうか…!?

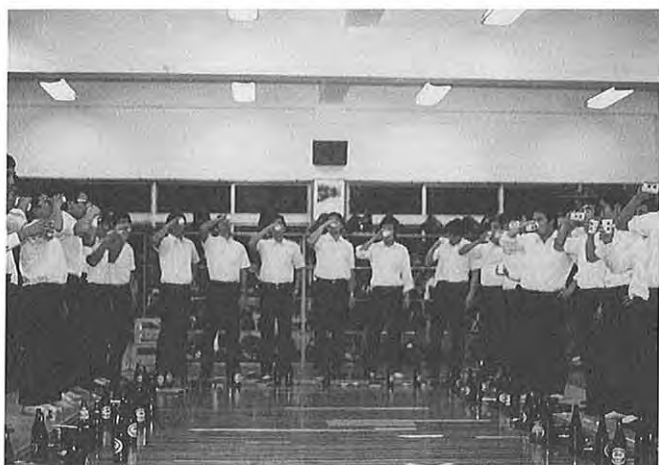
こんな感じで徳島文理大学剣道部の一年間は過ぎていきます。



ごつい俺らのネ

度胸だめし」—第二剣道部歌より—

●地下たびをはいて稽古がスタート
本格的な活動は現監督が就任された昭和五一年以降だが、それ以前は学連にも加盟しておらず、準加盟の一年間は道場もなく、外で地下たびをはいての稽古からスタートした。翌五二年、中四国学生剣道大会に初参加し、早くも全日本学生剣道選手権大会に初出場となる。以来、中四国学生剣道選手権者四名を含み延べ四〇人が全日本大会に出場している。女子については、現在までにわずか二名のOBしかいないが、うち一名は中四国女子学生剣道選手権大会に優勝し、全日本女子学生剣道選手権大会に出場している。



昭和60年 中四国学生剣道優勝大会 “祝勝会”

昭和五七年に全日本学生剣道優勝大会に初出場を果たし、本年七回目の出場を数えているが、特に昭和六〇年は、中四国学生剣道優勝大会において悲願の初優勝をしての出場であった。

また、昭和六一年に大韓民国に初の海外遠征を行なったことは、例年行う武者修業の中でも特筆すべきことである。

●稽古の特徴「朝から晩まで切り落とし」

さて、徳山大学剣道部の稽古を見つめてみると二ツの特長があると思われる。

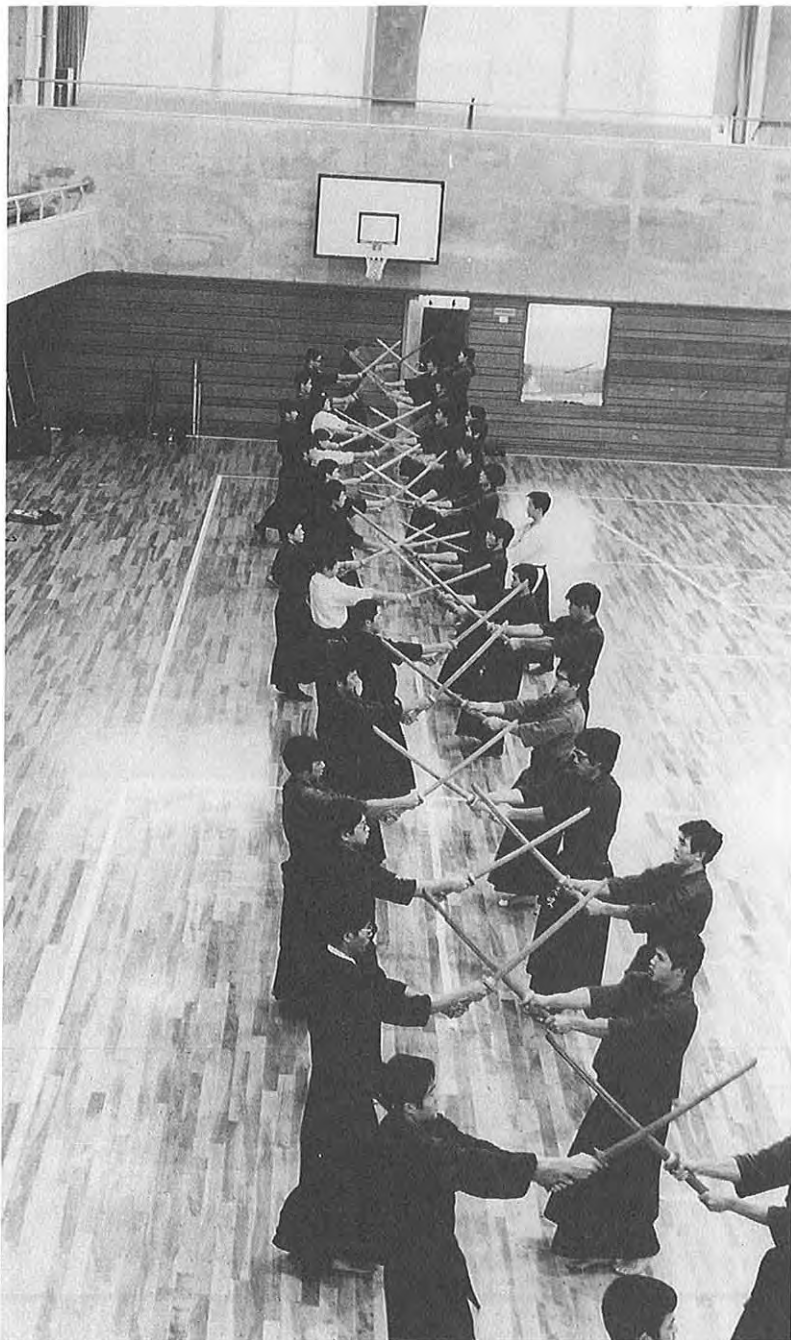
その一ツは、小野派一刀流の「切り落とし」を意識しているところにその特長がある。

本学の面タオルには、「切り落とす 太刀の下こそ地獄なれ 打ち込みみれば あとは極楽」なる一刀流の極意ともいべき剣道歌が文字になっており、第二剣道部歌では「切り落とす太刀の音はヨ ごつい俺らの度胸だめし」と歌われ、新入部員を歓迎して歌う新人哀歌には「いいぞいいぞとおだてられ 死に物狂いで来てみれば 朝から晩まで切り落とし 彼女なんぞは夢のうち」とあるように、日々の稽古で、特注の一刀流木刀を持ちトレーニングしているのである。

そして「真面」を打つことを意識しているところに二ツ目の特長があるといえる。

たとえば合宿では、真面を打たがための必死のそして恐怖の三〇分懸かり稽古があり、全日本学生剣道選手権大会を決めては、

「切り落す太刀の音はヨ♪



平成2年春国東合宿 徳大学大名物「切り落し」の稽古

創部 昭和47年
部長 榊 康守
監督 榊 康守
部員数 男36名
女3名
計39名
コーチ 島村 豊茂
主将 島田 誠
副主将 引地 隆雄
主務 田中謙太郎
幹事 馬屋原久紀

部員全員を相手に、試練の立ち切り試合が待っている。いずれも疲労困憊した中で、無になり打ち込む真面が求められているのである。

●大きな夢をもって

徳山大学は現在学生数二千五百余りの単科大学、いわば小さな大学である。また全国数ある大学剣道部の中でも歴史の浅い部であるに違いない。そんな中で、徳山の地にありながらも、我が徳山大学剣道部は、常に大きな夢を持ち、剣道に情熱を燃やし、全国区の大
学剣道を目指している。



部旗「剣誠」

●部のモットー

- ・正しい姿勢、機敏性、巧緻性の修得
- ・注意力の集中と決断力の育成
- ・責任感と自主的精神の育成
- ・剣道修業上の基本である礼儀、相手を尊重する態度に特に重点を置く

●稽古の様子

練習は週5日 1時間半～2時間程度

1. 準備運動
2. 基本打ちの練習
3. 打ち込み、掛かりの稽古
4. 地稽古
5. 整理体操

普段は基本練習に重点を置き、大きな技の修得に努めている。

●年間行事

- 2月 卒業生追い出し稽古
- 3月 春期合宿
- 5月 中四国学生剣道選手権大会
- 6月 開学記念試合
鳥根大学定期戦
- 8月 夏期合宿
中四国学生剣道優勝大会
- 11月 中国五大学学生競技大会
- 12月 中四国学生剣道新人戦
鳥取大学五道部演武会
豊澤杯（稽古納め）



鳥取大学は、鳥取師範学校、鳥取青年師範学校、鳥取農林専門学校、米子医学専門学校、米子医科大学を母体とし、昭和二十四年五月に新制大学として発足した。昭和二十九年に、当時の農学部助教授の長智男先生（初代部長）と、白井定彦先生（初代師範）、学生有志が中心となって、鳥取大学剣道部の復活の先駆けとなる同好会を発足。翌年、正式に部に昇格し、鳥取大学剣道部として本格的に活動を開始。昭和三十一年には中四国学生剣道優勝大会に初参加した。

昭和三十六年にOB会が発足。この年の中国五大学競技大会の団体戦で初優勝を飾る。また、今に続く鳥根大学との定期戦が始まったのも同年である。昭和四一年、鳥取大学剣道部の部誌「剣風」の第一号を創刊。隔年発行であったが、近年は毎年の発行を行なっている。

現在、柏田幸男先生（工学部教授）を部長とし、本大学OBである湯村正仁先生を監督に迎え、本学部は湖山キャンパスで、医学部と医療技術短期大学部は米子キャンパスにおいて、日々稽古に励んでいる。

又、普段の稽古に加え、追い出し稽古などの特別稽古も伝統的に行なわれているが、中でも追い出し稽古における卒業生に対する在校生の激しい面体当り（一人ずつ交代で卒業生がダウンするまで行なわれる）や、春期合

砂丘の風を背に受けて



部誌「剣風」第11号

鳥取大学剣道部部歌

- 一、砂丘の風を背に受けて
稽古に励む若人が
正義の道を進み行く
おお我等鳥取大学剣道部
- 二、湖山の池に跳返る
気合籠めたる若人が
礼儀の道を正し行く
おお我等鳥取大学剣道部
- 三、千代川の清流に
玉汗流す若人が
理想の道を求め行く
おお我等鳥取大学剣道部



鳥大、鳴教、大教大との合同稽古のひとつ

部員数 55名
(医学部、医療技術短期大学部を含む)
部長 柏田 幸男 (工学部教授)
師範 山根 幸恵
監督 湯村 正仁
歴代師範 白井 定彦 (故人)
湯村 哲明 (故人)
太田 義人 (故人)
戸田 政夫 (故人)
山根 幸恵 (現師範)

中四国大会の主な戦績
優勝大会 優勝2回・2位2回
3位6回
女子優勝大会 3位3回
選手権大会 1位1人・2位2人
3位6人
女子選手権大会 2位1人・3位1人

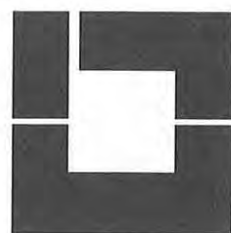
宿での一年生の全上級生に対する掛かり稽古、さらには稽古納めのときに行なわれる豊澤杯(部内試合であるが、勝敗にはこだわらず、伸び伸びと剣道を楽しむために行なわれる個性的な試合)などは、今では鳥取大学剣道部の名物行事となっている。

我が部は、県下に他の大学がないために対抗試合をもつ機会に恵まれず、鳥取大学との定期戦が唯一、日々の鍛錬を確認する場であった。したがって、我々は試合経験を積むことを最も必要としてきたのであるが、九四年度は数年ぶりに西日本大会に出場したり、他県へ出向いて練習をしたりと、湯村監督のもと精力的な活動を試みた。比較的閉鎖的な今の鳥取大学剣道部としては、試合経験を積むという目的に加え、他の地域や大学との幅広い交流をめざすという視点からも、さまざまな活動が続けていくのは望ましいことと考えられる。

このように、我々は中四国大会における上位進出を当面の目標として稽古に励んでいるが、試合での勝利を目指すことから更に、剣道の楽しさ、素晴らしさを部員一人一人が実感、再確認できることを最終的な目標と考えている。

鳥取大学剣道部としての伝統を守ると共に、独自の工夫を取り入れようと、「剣誠」の部旗のもと日々精神を重ねるものである。

がんばるう!!



創部 昭和59年6月30日
部長・監督 木原 資裕
主将 田中 幹人
女子主将 宇尾知佐子
幹事 吉村 安代
主務 吉村 安代
会計 三木 智美

●年間行事

- 3月 春合宿頑張ろうコンパ
春合宿
- 4月 新歓コンパ
- 5月 中四国学生剣道コンパ
県下女子大会
西日本学生剣道大会
- 7月 東京教育系大学ゼミ
四国インカレ
- 8月 夏合宿
中四国優勝大会
- 10月 秋ですコンパ
- 11月 眉山杯
- 12月 中四国新人戦
忘年会
- 3月 おいだしコンパ



創設7年目で歴史は浅いです
これからみんなで鳴教大の歴史を築いていきます

●鳴門教育大学剣道部

鳴門教育大学は徳島大学教育学部が徳島大学から分かれ、昭和五六年一〇月一日に創設された新構想の大学です。ですから、わが剣道部の歴史は浅く昭和五九年の創設です。先輩方の話を聞くと、当初から少人数・自由な気風で稽古、活動を行なってきたようです。先輩・後輩がわきあいあいとした雰囲気でもり上げていく鳴教大剣道部のカラーは今でもうけつがれています。

木原資裕先生がこられてからは、他大学との合同合宿に参加させていただいたり、多くの試合に参加することでさらに多くの大学と交流がもてるようになり、部員にとって良い

●鳴教大キャンパス（島のお城）

鳴教は高島という小さな島にあるのでちょっとしたお城。統一されたキャンパスは洒落ていてプロムナードみたい。

激しい地盤沈下と、島だけに風がきついのが弱点ですが、島へとかかる小鳴門橋から空を真っ赤に染める夕日を見るとロマンティックな気持ちになります。すばらしい環境とキャンパスは私達の自慢です。

皆さんも私達のお城に遊びに来て下さい。



自慢のキャンパス。遊びに来てください

少数精鋭、すくないけれど



鳴門海峡のうず潮

●鳴門海峡うず景色

鳴門名物・鳴門の渦にかかる大鳴門橋は全長一六二九m、橋をささえるタワーの高さは一四四m、大正時代に橋を作ろうという動きがあつて以来、以後七〇年間にわたつて四国

と淡路の人々の夢のかけはしとなつてしましたが、ついに完成しました。

近くにある鳴門公園には私達も気晴らしにたまに行きます。眼下には、カマボコの『ナルト』で有名なうず潮が、海峡に大きな円を描いて回っています。真にその景色は、絶景であります。

●我らが木原先生

私達が心から慕っている木原先生、時にはよき父であり、時にはよき兄のようであり、時には鬼のようであり、時には仏のようです。西日本学生剣道大会では、雨と霧の六〇〇キロ一二時間かかった福岡への道のりを、熟睡中の我らに乗せて、目を真っ赤にしながらウンケルを飲みつつ夜じゅう運転して下さいました。

私達は誇りに思います。木原先生に出会い、木原先生と共に、この大学時代がすごせることを……。



わたしたち!



私たち萩短剣道部は、本当にできたばかりの部なのでその歴史は浅く戦歴もまったくと
いっていいほどありません。

●部員は四人

その上、ただいまの練習可能な部員数は女子四人という少人数です。

また道場にも恵まれず、他の部活とのローテーションで体育館で水曜日と金曜日の週二回の練習しかできません。また、みんなの都合があわなくて練習ができない時もあります
が、何とか時間をあわせてたりなどしてできるだけやるようにしています。

そして、私たちには指導して下さる監督などがいないため、部員が高校時代にやったことや経験を生かし、それぞれの弱点などを指摘し合います。そうすることにより、部の雰囲気も活気づいてきます。

とにかく、萩短剣道部では部員一人一人がいろんな役割をはたすのです。

またよく部員全員で練習の後にカラオケにいたり、誰かの家に行きご飯を作ったりと、とても仲がいいのです。

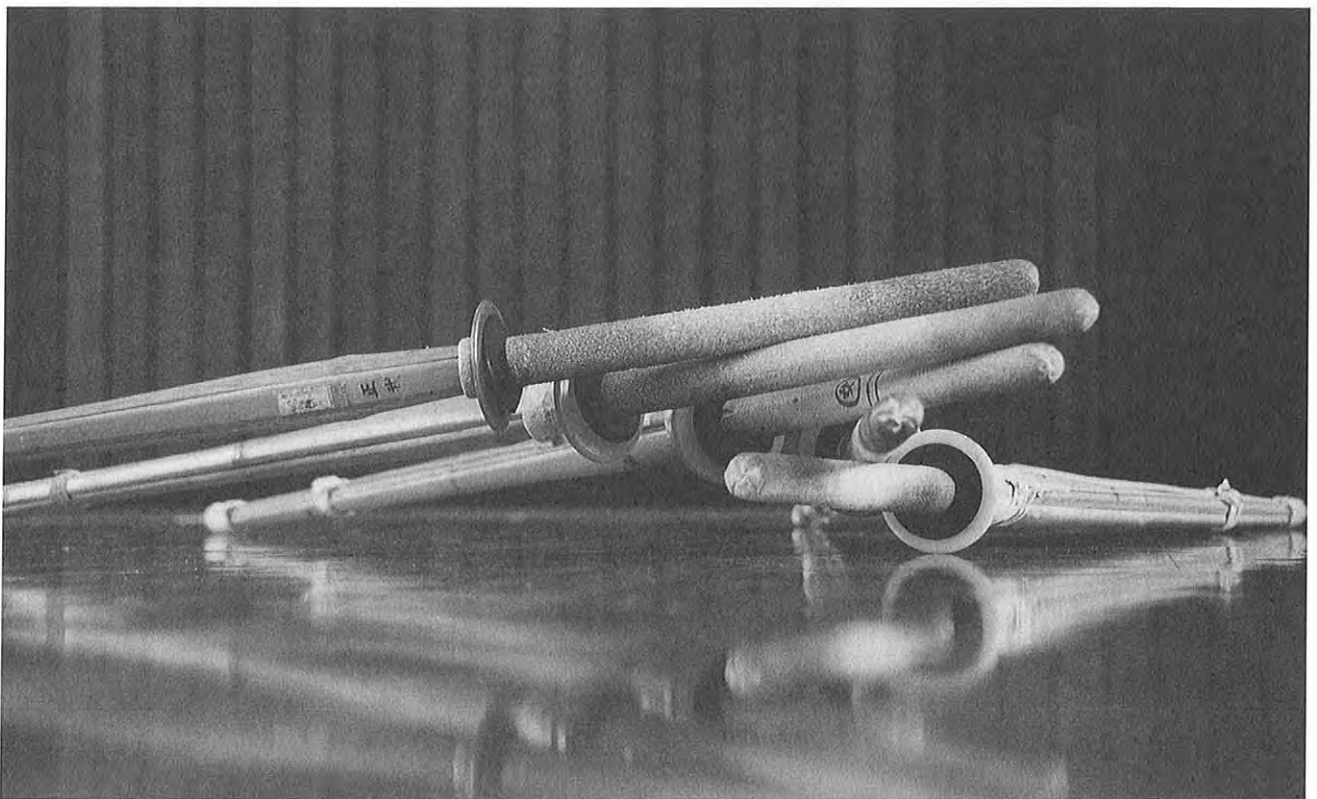
●夏合宿をやりたいけど

一年間の練習は、だいたい決まっていますその季節に合わせた練習をしています。

春には、まず新入生が入ると、初心者とそうでないものにわかれて練習します。初心者にはまず剣道とはどういうものかということ
を理解させ、楽しくできるように指導します。

剣道部の歴史を創るのは

創部 平成2年
部長 時枝 末六
顧問 小松 洋一
部員数 13名



剣道はどうしても、やっていていやになる人が多いと思いますが、そうならないためにも、初めに剣道の楽しさを実感させます。そして、ほかの部員は特に基礎から見直していくように稽古します。

夏には、どうしても暑くなり剣道をする気が失せると思うのですが、ここは短時間集中でやっています。稽古が終わった後はプールに入り汗を流します。

今、夏合宿を取り入れるためにいろいろ考えています。しかし、夏合宿は費用などがなため、なかなか実現は難しいです。

秋・冬は、ほとんどが基礎を鍛えるためにもトレーニングに励んでいます。萩短は海と緑に囲まれとても環境が良く、島ひとつが学校なので平坦な道や坂になったところが有り、走るのにも適しています。瞬発力を鍛えるためのものや、筋力を鍛えるためのものをいろいろ組み合わせています。

●とにかく日々の稽古に励みたい

このようにして、私たちは稽古に励んでいます。

これから萩短の歴史を作るためにも、どんな試合で活躍できるように日々の稽古に励みたいと思います。

また、部員を一人でも増やすようにしたいと思っています。

こんな部ですが、どうぞよろしく願います。

心に!



昭和53年当時の剣道部

●部の歴史

昭和四一年、わが校は比治山女子短期大学として開学し、平成六年には、比治山大学が開学いたしました。広島市内から交通機関を利用し、約二〇分、緑に囲まれた少し小高い所に位置しております。

比治山女子短期大学剣道部は、昭和四九年に創部され、今年で二一年を迎えました。何事も初めは苦勞すると申しますが、初代の先輩方も非常に苦勞なさって創部されたと聞いております。

短期大学ということや、剣道人口が減少の傾向にあるということから、私達の部には部員の確保などで幾度か廃部の危機に立たされた事もあります。それは、いつの時代にも、あったようです。

現在私達の部には、数えるほどの部員しかおりません。また、その部員のほとんどが剣道経験が浅く、戦歴といいますが、特に目立つ成績は残しておりません。

しかし、過去には素晴らしい成績を残された先輩方や、卒業されてからも、熱心に剣道が続けておられる先輩方も数多くいらっしゃり、私達部員にとっては、大変心強い事だと思っております。

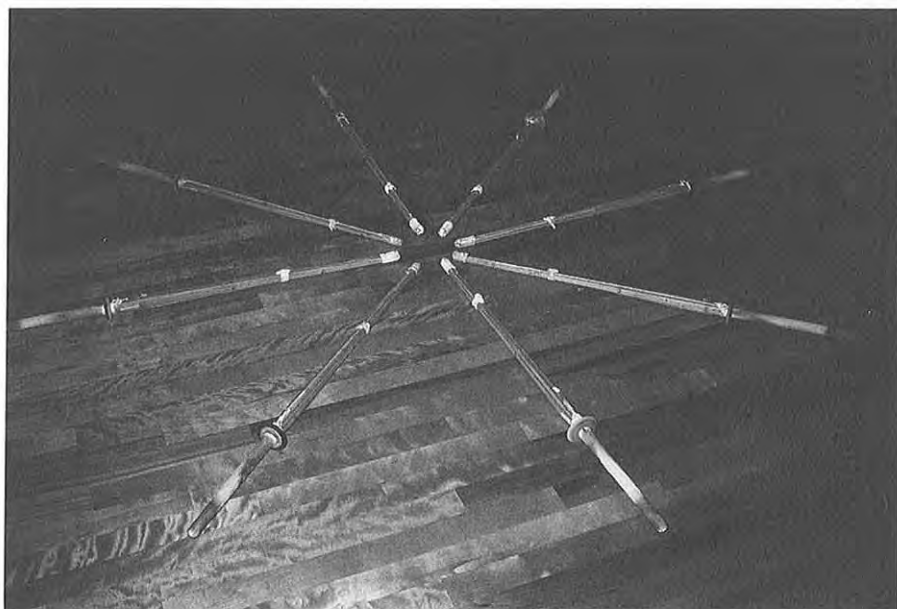
●OG会組織と活動

OG会は、平成五年に創立されました。

OG会組織は、OG会長、OG副会長、会計を各一名ずつ置きます。その選出方法は、OG会長、OG副会長は二年に一回、OG会メンバーの中から選挙により選出され、会計は現役生より選出することになっております。また、OG会の円滑な活動のために、年会費を千円おさめていただいております。そして年一回、年会費の収支決算書を年間の行

初心と基本をいつも

- ・創部 昭和49年
- ・部長 木本 雅典
- ・監督 馬本 勉
- ・部員数 女7名 計7名



準備体操前は、このように竹刀を並べます

事予定と共に、OG会メンバーのお手元にお送りしております。

主な活動内容として、年一回の稽古会と、OG会などがあります。

稽古会とOG会は昨年と今年の四月にそれぞれ行ないました。

稽古会では、多数の先輩方が駆け付けてくださいました。中には、お子様連れの先輩方や、剣道を通じて知り合われたご夫婦の先輩方もご参加されました。

OG会では、先輩方の様々なエピソードを聞くことができます。

剣道部を創部された方々のお話によると、当時はまだ体育館も出来たばかりで新しく、体育館内での練習許可が頂けなかったため、シューズをはいて戸外で剣道の練習をされた時期もあったようです。

そのような時代もあったと思うと、今、体育館内で練習出来る私達は、幸せなのだと思いました。

●稽古の様子

私達の部では、初心と基本をモットーとして心掛け、毎週火曜日と木曜日に稽古をしております。そのほかの日は、ジョギングや、縄跳びなどのトレーニングをしたりしています。

しかし、なかなか思うように部員が集まらず、あまり良い状態にあるといえないのが、残念なところです。

昭和49年 大学開学と同時に創部
顧問 安蘇 幹夫
監督 松尾 厚弘
主将 中野 学
副主将 津田 耕作
副主将 乗松 信也
OB担当・主務 佐伯 常彦
幹事 山口 智久
女子統制 益山 友美
OB担当・主務 冠野有宇子
会計 森福 麻美
部員数 23名 (男子16名 女子7名)



我が広島経済大学剣道部は、昭和四二年の大学開学と同時に創設され、以来二七年と数ヶ月の間、その活動を続けている。

創部当初は、柔道部と一緒に学舎内の一教室を稽古場としていたが、昭和四九年の武道館の建設、更には平成五年の石田記念体育館の完成に伴ってつくられた武道場へと移っていった。

今や十分な施設を有し、現在主将中野学以下男子一六名、女子七名の計二三名の部員で構成され、日々練習に励んでいる。

過去の戦績を見ると、個人戦での全日本学生剣道選手権大会への出場者は一〇名くらいを数えるが、唯一団体戦での全日本学生優勝大会への出場は、日本武道館で開催された平成元年度であった。一回戦での相手、東海大学旭川校を下し、中四国の大学で唯一本学のみが二回戦に進出することができた。

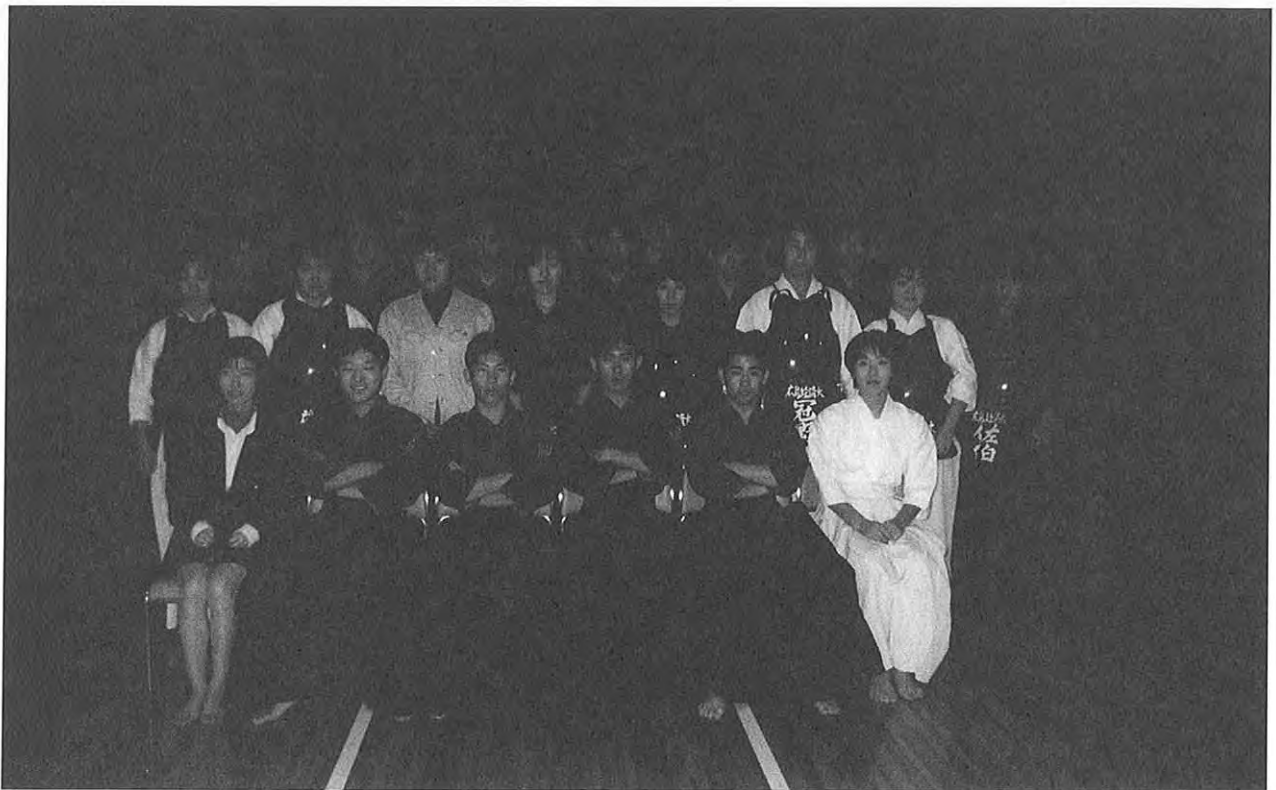
しかし、その後は低迷が続いているので、一念発起がなければならない。

剣道部のOBの人数も今や一五〇名を超え、OB会組織である一舟会を結成して、黒瀬琴二会長以下、現役部員に対して物心共に援助をいただいている。

部内での主な行事としては、まず五月中旬に行なわれる新入生歓迎合宿であり、ここで新入部員は大学剣道の洗礼を受け、最終日には新入生歓迎コンパで入部を祝福される。

無我・平常心

—我が広経大剣道部のモットーである—

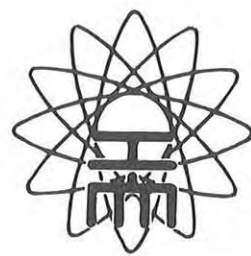


これに続くのが、本当に厳しい夏合宿であり、ここでは各人の技術・精神面でのレベルアップが計られる。

また秋になり、大学祭が近づくと他の武道系サークルと共に演武祭を行っており、ここで我が剣道部は、日本剣道形・居合などを演武しています。

楽しい所では、大学祭での市中行進や秋満祭・後夜祭で焼鳥・豚汁などの出店などを出すなど、厳しい鍛錬から楽しい祭りまで、行事はかなりさまざま行なわれている。

現在では、月曜日から金曜日まで、一六時三〇分から一八時まで、土曜日は一〇時から一二時まで練習を行なっている。特別な稽古をするわけでもなく、ただ基本を守り、各人の目標としている剣道に向かって日々努力しており、部員全員の目標である全国大会出場を目指して稽古に励んでいる昨今である。



打ち込み掛かり稽古



我が剣道部は、昭和三八年に創立され、四年にクラブとして発足しました。現在の部員数は一八名（四回生五人、三回生七人、二回生一人、一回生五人）で日々爽快な汗を流しながら練習に励んでいます。練習時間は、月曜日から金曜日までは一七時から一八時半、第二・第四土曜日は一〇時から一一時まで武道館一階の剣道場にて活動しています。

●戦績・練習

- ・中四国学生剣道優勝大会
- 優勝一回、第二位一回、第三位一回
- ・中四国学生剣道選手権大会
- 第二位 丹 幸藏

練習内容は、準備体操→切り返し→打ち込み→基本技→掛かり稽古（打ち込み切り返し打ち込み掛かり稽古）→相掛かり→応用技→地稽古をして終わりです。

理系大学ということもあり、練習時間が思うようにとれません。部員全員が短い時間でも大きな声を出して稽古に集中すれば、長く練習するよりも力がつくと信じて日々稽古をしています。

また、伝統として一年生は、先生の許可がでるまでは基本技の後、地稽古を行わず、打ち込み切り返し・打ち込み掛かり稽古を行なっています。これは、剣道をする上での基礎体力を身につけるためであり、また、気力・体力続く限り相手に打ち込んでいく稽古

なので社会に出て必要とされる忍耐力を養うことができるのです。

師範、永田先生がおっしゃられる言葉の中で一番心に残っているのは、『面を打ちなさい。面が打てれば、他はどこでも打てるようになる。』というお言葉です。私達はその言葉を胸に、普段から心掛けて稽古をしています。

●年間行事

- 一月 鏡開き
 - 三月 卒業式
 - 四月 新入生歓迎合宿
新入生歓迎コンパ
 - 五月 O B幹事会 幹部交代
中四国学生剣道選手権大会
西日本学生剣道大会
 - 六月 O B総会
広島県春季学生剣道大会
 - 八月 夏合宿
中四国学生剣道優勝大会
 - 一〇月 演武祭
 - 十一月 工大祭 少年少女剣道大会
広島県秋季学生剣道大会
 - 一二月 永田杯争奪剣道大会
- 毎年、十一月の終わりの頃に、少年少女剣道大会を行なっています。これは、地域の人達との交流を深め、また、工大剣道部を知っていただくために開いています。この大会で

気力・体力続く限り…

創部 昭和38年
部訓 活人剣
部長 清田 誠良
師範・監督 永田 侃
師範 相原 勝美
宇野 滋男
コーチ 滝田 謙次
空 憲久

主将 千草 源太
副主将 大戸 尚克
主務 小田村裕文
幹事 青井 義樹
部員 18名
(男子16名 女子2名)



部旗「活人剣」



春合宿 岡山・湯郷にて

は、工大周辺の各道場から集まった多くの少年少女剣士が、私達と稽古をした後、小学校低学年の部、高学年の部、中学校の部と分かれて試合を行ないます。OBの先輩方が始められたこの交流会を私達も大切に引き継ぎ、続けていきたいと思っています。

また、一二月の中旬に、永田杯争奪剣道大会を開いています。これは、OBと現役生とが入り混じって、トーナメント戦を行なうというものです。このことにより、OBと現役生とのつながりを深めています。

剣道では、よく『礼に始まって礼に終わる』と言われる。要するに、剣道がうまくても強くても、それに立派な精神が伴わなければならないということです。従って、剣道では立派な人間形成ということが一番の目的といえるでしょう。そして、クラブでは、いろいろな人間が集まった団体で、普段の生活では体験できない貴重な体験を通し、立派な人間になるように、大学生活の一部として活動していければよいのではないかと思います。そして、これからは部員一同一丸となつてがんばっていきましょう。



部旗



運動会で綱引き

師 範 五月女 武治
監督 長野 昌敏
部長 木谷 直俊



練習のあとで

我が修道大学剣道部は、昭和三五年、広島商科大学剣道部として創部され、昭和四八年、広島修道大学剣道部と改名して、現在、四回生三名、三回生二名、二回生五名、一回生七名の計一七名で少人数ながら一致団結して日々稽古に励んでいます。

●我が部の練習方法

さて、我が部の練習方法とはいえば、長時間だらだらやるのではなく、短時間の間に、能率良く練習することです。週に二回は、師範である五月女先生に御指導を頂き、また、OBの方々にも御指導頂き、普段学生同士の練習では味わえないような稽古となっています。稽古の他にも練習の一部として我が部では、ランニングを取り入れています。又、稽古が終わった後の整理体操も毎日欠かさず行なっています。このランニングと、整理体操は、今年から始めたものであり、特に整理体操は、部員の間でも、なかなか好評です。ちなみに整理体操では、二人組となつて行なう柔軟体操も含まれているので、練習の後のはった筋肉を十分にほぐすことができます。このように、我が部の練習は、少人数ながら、内容のある、充実した、又、精神修業も兼ね備えた稽古を行なっています。

●厳しく楽しい年間行事

年間行事としては、夏合宿、春合宿、それ

チームワークは バッチリだ！



練習風景

夏合宿で

に、新入生歓迎コンパや打ち上げ、忘年会や新年会など、多々あります。毎年行なわれている夏合宿においては、酷暑の中、午前、午後の二部練を行なっております。この合宿は、肉体的にも精神的にも、耐久力を要する合宿であり、一週間続けることによって、忍耐力が備わります。春合宿も同様、厳しい練習に変わりはないのですが、他校との合同合宿となっており、他校との練習の機会が減少しないため、この合宿は、他校との交流を深めることができるとともに、又、お互いの特徴ある練習法によって刺激し合えるよい機会となっております。我が部のモットーは『稽古は厳しく、遊びは楽しく』というものですが、文字通り、コンパは、先生、OBの方々、部員全員で、毎度、楽しく盛り上がっています。OBの方々とは、あまり接する機会がないので、こういうコンパの席では、全員で楽しく過ごすとともに、OBの方々との交流を深める場でもあるのです。

●めざすは全日本

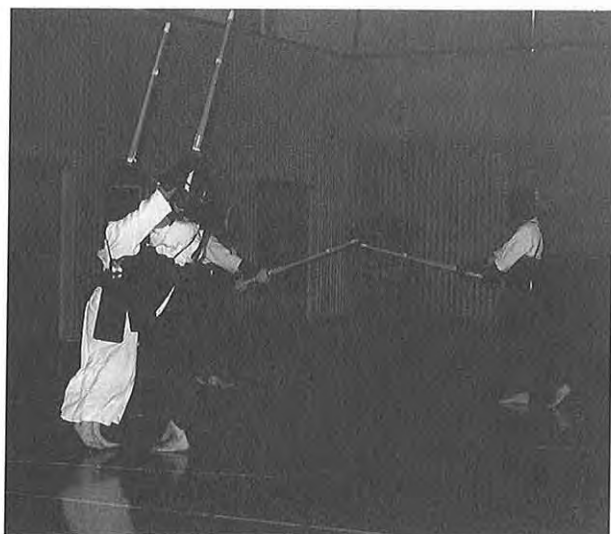
最後に、我が部の目標は、やはり全日本大会出場ということです。過去には、全日本で三位になられた先輩もおられ、これからも、日々の稽古を大切に、全日本大会目指して、がんばっていきましょうと思います。

新たな

スタートをめざす



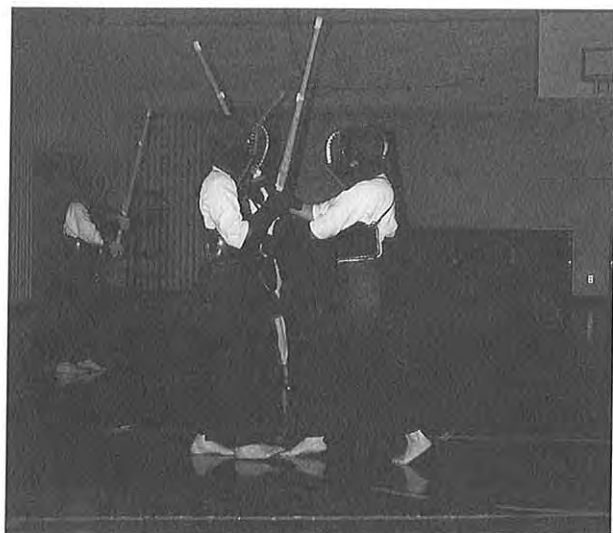
創設年 昭和47年
 部長 石永 正隆
 主将 江谷 満里
 幹事 上川 智子
 田部 百合子
 草谷 夏枝
 坂本 まや子
 村上 七絵
 部員数 4年生1名
 3年生5名



我が部には、OG会組織が確立しておらず、先輩方の様子や我が部の過去の様子は、残念ながらほとんど口伝えされたものや、残されている記録からしか窺うことができない。そのため、我が部を正確に振り返ることができののだろうかと不安もあるが、なるべく記録に忠実かつ記録と伝え聞いたことの関連する点をもとに述べる。

●部の歴史

昭和四七年の春に創設される。その当時は大学に体育館がなかったため昭和四九年の体育館完成までは、教室や県立体育館で練習を行っていた。途中記録のない年もあるがおそらく細々としてであろうが現在につながっていると思われる。



稽古風景

●稽古の様子

創設当初は、剣道だけでなく杖道も練習しており、後には剣三道を学ぼうということから剣道・杖道・居合道をしてきたが、三年前から剣道のみとなった。

部員は毎年たいてい一〇人前後で、週三日程度稽古を行なう。練習内容は、基本練習が中心で、特に現在にまでつながるような決まったものはないが、その時々部員にあわせて試行錯誤しながら確立されていく。

そのために、練習後にまずは個人や全体の反省を行ない、それをもとに次回の練習を考えるように反省会を大切にしている。また、稽古中に出た疑問点や注意点は、その都度部員全員で考えながら稽古を進めている。時に

心に花を、剣に清流を!



美女剣士集合

は、先輩の知り合いの方が稽古にきてアドバイスをしてくださるので、いつもよりひきしまった稽古ができる。少人数でこぢんまりと続けてきており、上下関係もほとんど和気あいあいと稽古している。その反面、馴れ合いになりすぎ、厳しさに欠けるところがある。これがこれからの我が部について考える際の重要な問題である。

現在は、大学の新築工事に伴う本校舎と仮校舎との移動生活のため稽古もままならない状態であり、かつ後輩がいないという大きな問題を抱えているが、平成七年の我が大学の学科改正に我が部の発展を期待し、今まで先輩方が守ってこられたものを次代へ受け継いでいきたい。

●他校との交流

記録によると、「県内女子学生剣道の親睦を深め、あわせて正しい剣道を研究し、女子剣道の技術向上をはかる」というねらいのもとに広島県内の大学によって、親睦練習、親睦試合などが行なわれていた。特に比治山大学とは研究を共にし、試合場その他で力になつてもらっている。

●我が部の課題

前述したように我が部は厳しさに欠けている。連盟に加入する以上、他大学と歩調を合わせるためにもそれなりの意識を持たなければならぬであろう。また、これからは、他大学との交流を深め、士気を高揚させ、気力、実力ともに充実させることを望む。



拙きを守り 真を求む



部旗「剣魂」

● 剣道部の歴史

我が広島大学体育会剣道部は昭和三十一年一月、寺本陸生氏が発起人となり、顧問に北村靖治氏を迎え、「広島大学剣道同好会」として発足した。

翌年、師範に大森玄伯先生を、監督に北村靖治氏を迎え、「広島大学剣道部」と改称し、正式な部として活動を始めた。当時は屋内道場もなく、屋外で砂にまみれての稽古であった。

昭和三六年には、屋内道場を獲得。昭和三九年には広大剣道部歌がつくられ、翌年、創部者寺本陸生氏の発案により「OB会」が結成された。現在は、会長を寺本陸生氏、事務局長を鎌谷敏則氏とし、「剣魂会」として活動している。

昭和四一年、中四国優勝大会で初の団体優勝を成し遂げ、全日本優勝大会に初出場を果たす。昭和四三年からは中四国大会を五連覇、また、昭和四六年からは全日本大会で三年連続ベスト一六と全国に名をはせた。その間、昭和四四年からは九州大学との定期戦が開始された。

昭和五四年、監督に下田洋夫氏を迎え、翌年、中四国大会を七年ぶりに制覇した。昭和五九年には、全日本女子優勝大会において初のベスト一六、昭和六〇年には、中四国女子優勝大会において、八年ぶりの優勝を果たした。

平成四年三月、師範の大森玄伯先生の御逝去。大きな柱を失う。しかし、平成五年の中四国大会を一〇年ぶりに制覇し、また全日本大会では初のベスト八となった。

平成六年からは、草間益良夫氏を監督に迎え、幹部を四年生に移行した。女子においては、全国教育系大会初優勝、男子においては、二〇年ぶりに中四国大会を連覇、全日本大会でもベスト一六となった。

平成七年の東広島市への統合移転完了をうけて、広島大学体育会剣道部では、故大森玄伯先生の教えである。「拙守求真」を守り、「王者の剣」を求め、「中四の雄」となるべく部員一丸となって稽古に励んでいる。

● 一年の行事

広大の一年の主な行事は、三月末の愛媛県立武道館に於いて行なわれる恒例の春合宿に始まる。四月には、新入生にとっては地獄のトレーニング、鏡山（旧比治山）対面式が待っている。五月上旬には、春の中四国大会、西日本大会にむけての強化練習、七月には全日本大会、全国教育系大会が行なわれる。八月には夏の中四国大会にむけての強化練習、

創部員	昭和三十一年十一月	男子33名	女子11名
部長	渡部 和彦	中西 兵二	鈴木 靖治
顧問	北村 益良	草間 真司	福島 敦一郎
監督	森田 野川	野川 藤原	藤原 藤原
ヘッドコーチ	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
副ヘッド	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子主将	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子副主将	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子主計	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子副主計	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子主会	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子副会	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子主担当	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一
女子副担当	佐藤 伸一	佐藤 伸一	佐藤 伸一

目指せ王者の剣、



93年10月 全日本大会初のベスト8



94年夏合宿

遠征を行ない、一〇月には男女全日本大会にむけての強化練習を行なう。一二月には、新人戦を戦い、稽古納めを行なう。年が開けた一月三日、初稽古に始まり寒稽古、九大定期戦を行ない、二月の卒業生追い出しコンパで一年を終える。

●主な戦績(平成七年二月現在)

広大の主な戦績をまとめると、以下の通りである。中四国大会男子団体においては五連覇、二連覇を含み優勝一〇回、二位一〇回、三位五回。女子団体においては、三連覇を含み優勝四回、二位八回、三位一回。男子個人においては、優勝者七名(連覇一名)、二位六名、三位六名。女子個人においては、優勝者二名(連覇一名)、二位一名、三位七名。新人戦男子団体においては、四連覇を含み優勝八回、三位一回。女子個人においては、優勝者三名、二位一名、三位四名。全国教育系大会男子団体においては二位三回、三位三回、女子団体においては、優勝一回、三位二回、女子個人においては、優勝者一名、三位二名。西日本大会男子団体においては、三位(日四)ベスト八(S四九、日六)。全日本大会男子団体においては、ベスト八(日五)、ベスト一六(S四六、四八、六一、日六)。女子団体においては、ベスト一六(S五九)。男子個人においては、ベスト一六(日四)。

魂の意気込み



夏合宿／高知・桂浜

● 魂斗

これは我々の部旗に掲げられた言葉です。「魂斗」とは、わき上がる魂の意気込みという意味です。この魂こそ、我ら部員一同の心であります。これに誓って試合にかされるよう、練習に精出しがなばっています。

● 部員は一〇名でも

我が広島電機大学剣道部は、ただたんに剣道の技術面の向上だけでなく、体力と精神力の向上を養おうとすることにあります。剣道は、長い歴史を持つており、現在の老若男女を問わず、誰にでもできる大衆的なスポーツです。

しかも、日本全国どこにいてもできます。また人格形成においても日常生活においても役立つ武道です。

現在我々剣道部員は一〇名と少数ではありますが、充実した練習をしています。試合では良い成績をとれる努力をしていくつもりです。部員一同、一生懸命やっというと思っています。

● 現役部員の一言

増金 私の剣の道は長く、終わりのないものである。

河本 これからも剣道をつづけていきたい。
宮本 日本の文化である剣道をやっている誇りに思う。

黒川 剣道は私にとっては、人生修行の場である。



魂斗・わき上がる



西日本学生剣道大会にて

創立年	昭和51年
創立者	草田 保典
監督	上野 和雄
部長	遠藤 敏郎
主将	増金 孝浩
副主将	河本 剛
主務	宮本 真吾
会計	埴岡 克明
OB担当	黒川 裕司



別府・地獄めぐりで

- 年間行事予定
- 四月 花見
- 五月 合宿・中四国学生剣道選手権・西日本学生剣道大会
- 六月 広島学生剣道春季大会・新入生歓迎コンパ
- 八月 合宿・中四国学生剣道優勝大会
- 十一月 演武祭・広島県学生剣道新人大会・卒業生追い出しコンパ
- 三月 合宿

埴岡 道において、日々修練を志しています。坂本 剣道は自分の人生の象徴だと思っています。

芝崎 剣道は体格に関係なく強くなれる武道だと思っている。

辻 今後も剣の道を歩みつづけ、精魂ともに鍛えていきたい。

竹内 今以上に努力を重ねて、さらに強くなりたいと思っている。

剣道

残された 我らの青春

監督 菅波 真吾
顧問 松浦 史澄
コーチ 香川 直巳
主将 植田 久也
副主将・統制 小河原 幹雄
女子主将 瀬尾 かわり
主務 黒石 浩司・中島 千波
幹事 長尾 岳
会計 木村 浩・西森 邦恵
部員数 男子32名 女子12名

中四国学生剣道連盟四〇周年と同時に、わが校も創立二〇周年を迎えることになり、さらには、姉妹校である福山平成大学も開学となり、私たちがとって記念すべき年となりました。

● 記念の創部二〇周年

昭和五〇年の開学と同時に創部したときは、男子のみ二〇名でしたが、今では女子も加わり、四五名となりました。稽古では、お互い刺激しあい、時には励まし時には鬼となつて厳しい内容をこなしていきます。しかし、面を外すと和気あいあいと話をはずませ、学園祭などの学校行事や部内でのレクリエーションでは思い切りのしみます。「けじめをつけ、何事にも一生懸命」が我が部の特徴です。こうやって一緒に過ごした仲間というの

は生涯忘れない宝物になると思っています。

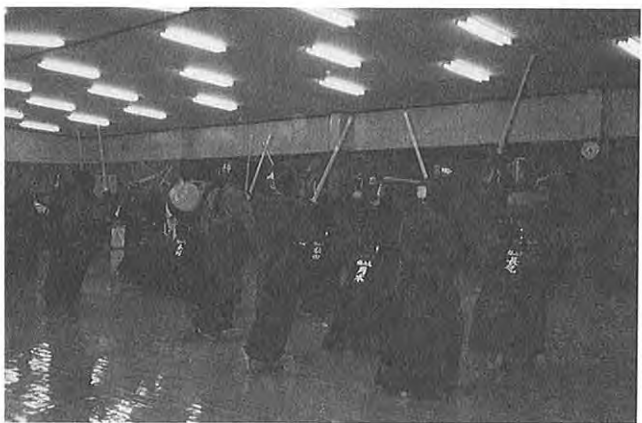
● 目標はやはり全日本

私たちの全日本へかける意気込みは並々ならぬものがあります。やはり大学で剣道をやっている以上は、皆、同じだと思います。

近年、我が部は体制も整い、個人では平成五年には男子一名が初出場を果たし、翌六年には男子二名、女子一名が出場、男女各一名が初勝利を上げました。そして同年夏、女子が念願の団体戦出場を果たしました。男子は一本差の次点に泣きました。これからは全日本の常連になるべく努力します。

● 地獄の春合宿

平成五年・六年の春合宿は、地獄の合宿となりました。六時起床に始まる四部練。なかでも午後の部は、半端ではなく、一時間半の



稽古風景

ここ三蔵に集い、謳歌する



部旗 「邪無思 (おもいよこしまなし)」
は我が部のモットー



部旗をバックに全員集合

素振りと一時間の追い込みとかかり稽古では、心身ともにぼろぼろ。技ではなく心の鍛錬を目標にがんばりぬきました。

●意識はいつも「鵜の眼、鷹の眼」

年々、中四国地区のレベルもアップし、試合に参加するたびに普段の稽古ではきづかなかった部分、また、効果的な対処方法のなかった課題への解決の糸口がたくさんあることに気づかされます。

「鵜の眼、鷹の眼」という言い方があり、これは「鵜が水中の魚を、鷹が地上の小動物を狙っている時の眼の輝き」を意味しています。「求めよ、しからば与えられん」という言葉と解釈が共通していますが、しかしこれは、「求めよ、しからば獲得できる」とも理解できます。受動的に、決められたとおりに行動するだけでなく、決められた範囲でも意識は常に、鵜の眼、鷹の眼でありたいと日々思っています。学内の稽古もさることながら、出稽古で他大学の胸もお借りするなど、積極的に精進していくことにより、結果がついてくると信じています。

連盟が発足して二〇年が経過したのちに創設され、歴史も浅く、昨年初めて悲願の全日本大会に出場を果たした、まだまだこれからの私たちです。これからも一致団結し、限らない夢に向かって突き進んでいきたいと思えます。

勝負はこれから！



バスケットゴールの下で 一足一刀でかまえる



1994年の忘年会で
これからだ！ これからだ！
思いを込めてつどった



カップでなくて、おナベで一パイ

ゼロからのスタート

創部 平成6年
部長 福井 正康
監督 松田 愷愷
主将 新名 隆二
主務 飛良 英吉
幹事 山本 竜市



1994年夏の合宿・岡山波川青年の家にて



とりあえず三人衆



練習後のハッスル、コップを持つのは福井正康先生

我ら福山平成大学剣道部は、平成六年に誕生した新しい部です。それ故、部の歴史、伝統はありません。が、しかしこれから部の歴史や伝統を創っていくのは私達であります。そんな意欲満ちた剣士達がここに集い、楽しく、厳しく、毎日練習に励んでいます。

毎日放課後、体育館に集まり二時間の集中した稽古を行なっています。まずは軽くウォーミングアップを行ない、基本打ち、技打ちを行ないます。そして、かかり稽古、試合稽古、稽古を行ない、最後は追い込みを行なっています。練習後は各個人でウエイトを行ない、一日が終わります。

道場も部屋も部旗も部費も無く、部員も一人三人という小さな部です。ゼロからのスタートをきったばかり、これからが勝負です。



創部 大正12年
 部長 高沢 貞三
 監督 青野 晃昭
 師範 石田 敏男
 顧問 川村 博昭
 コーチ 上垣 忠博 (男子)
 小笠原宏実 (女子)
 森林 信

<男子>

主将 飴野 秀樹
 副主将 渡邊 赴仁
 主務 藤田 尚保
 中四学連 久米田泰利
 会計 大西 敏博
 練習指導 仮谷 好理

<女子>

主将 神谷 圭紀
 副主将 門田 真弥
 原田 志穂

<部員> 男子24名
 女子19名
 合計43名

<年間行事>

4月 花見・新歓コンパ
 5月 中四国大会 (個人)
 西日本大会 (団体)
 7月 四国インカレ
 8月 夏季合宿
 中四国大会 (団体)
 10月 全日本学生大会 (男子)
 (女子)
 大学祭
 12月 中四国新人戦
 追い出しコンパ
 1月 寒稽古
 3月 春季合宿



合宿のひとつ

我が松山大学剣道部は、大正二二年の学校創立と共に創部され、去年七〇周年を迎えました。この七〇年間に数々の実績を残しており、中四国大会において過去、団体・個人共に優勝回数一回という最多を誇る伝統があります。最近の戦績においては次のようになっております。

●戦績

(男子)

平成三年 西日本大会 第三位
 平成四年以前、中四国大会四年連続優勝
 平成五年 四国インカレ

(団体) 優勝 (六・七年連続)
 (個人) 第三位

平成六年 中四国大会 (団体) ベスト四
 中四国大会 (個人) 準優勝・ベスト八
 四国インカレ

(団体) 優勝
 (個人) 準優勝・ベスト四

(女子)

平成五年 女子選手権 (個人) 優勝

中四国大会 (個人) 優勝

四国インカレ (団体) 優勝

中四国大会 (団体) 準優勝

平成六年 女子選手権 (個人) 優勝

中四国大会 (個人) ベスト四

四国インカレ (団体) 準優勝

(個人) 優勝・二位・三位独占

百練自得努力は無限



平成6年 夏季合宿



合宿納会が終わって

このような戦績を残しており、これは日々の稽古において師範・監督・コーチ・部員が一丸となって努力し続けてきた結果だと思えます。また、日々の稽古の他にも夏季合宿・寒稽古・春季合宿というような厳しい稽古を行ない、その稽古の中で、基本を忠実に守り、一本一本を大切に打つというところに重点をおいています。その中で精神的強さを身に付けることができ、さらには先輩・後輩の信頼関係や親睦を深めることができます。

このような努力のおかげで、松山大学体育会剣道部は発展し、今のような栄えある伝統が生まれているのです。そして今後も、部のモットーである「百練自得」をむねに、部員全員が一丸となって「松山大学」の名を轟かせたいと思っています。

集いし 剣士たち

こんにちは。美作女子大学剣道部です。私達の剣道部は、中四国学生剣道連盟に加盟させていただいて、まだ日が浅いので、何をどうしたらいいのか、わからない事ばかり。こんな未熟者ばかりの集団ですが、よろしくお願ひします。

私達の部は、三回生一名、二回生三名、一回生二名の計六名の少数で活動しています。でもこの中には短大生も含まれているので毎年人数の変動が大きく、大変です。活動内容は、月・水・金の三日間を主とし、他の日は各自で道場に通ったりしています。

月曜日は、午後七時から、八時半ぐらいまで工業高校の剣道場で、津山剣道連盟の先生方の練習会に参加させていただいています。だいたい、試合稽古が中心ですが、先生方には、大変なご迷惑をかけながら練習をさせていただいています。

水曜日・金曜日は、津山総合体育館の道場で、午後七時半から九時くらいまで練習をしています。これも、津山剣道連盟の先生方のご指導されている練習会で、主に一般の方が多数参加されています。

だいたいこのような稽古内容ですが、私達は、先生方には、全く歯がたちません。「いつか、一本とってやろう」という意気込みで練習させていただいています。これ以外の日は先に述べたように、各自で、近くの道場や、小学校の剣道教室などにお世話になりなが

ら、練習をやっています。校内には、練習のできる場所がないので、部員が全員そろって練習をするというのは本当にまれな事です。しかし、津山のいろんな道場で練習させていただいても光栄に思っています。

さてこの辺で、私達の部の顧問兼監督の先生を紹介したいと思います。先生の名前は「山形良治」といいます。見た目も性格も、おっとりされていて、おだやかな人柄ですが、その体のどこにそんな体力が秘められているのか！ というくらい「パワフル」な先生です。剣道をされている時は、よく動かれ、疲れを知らないのでは……と目を疑うぐらいです。先生は、皇宮警察本部を退職された後、美作学園へ勤務されており、剣道の腕も七段でいらっしやいます。ご自分の道場も開かれています。こんなに、すばらしい先生に教えていただいで、感激と得した気分です。

美作女子大学の今後の目標は、まず、部員の数を増やす事が一番の要だと思っております。また、部員全員がそろって、練習をする事。つらい剣道をするのではなく、楽しい剣道をやっていく事。また他の大学の方や、津山のいろいろな道場の方々と交流を深め、剣道を長く続けていく事等々。これらの目標に向かって、一致団結をして、がんばっていきたいと思います。

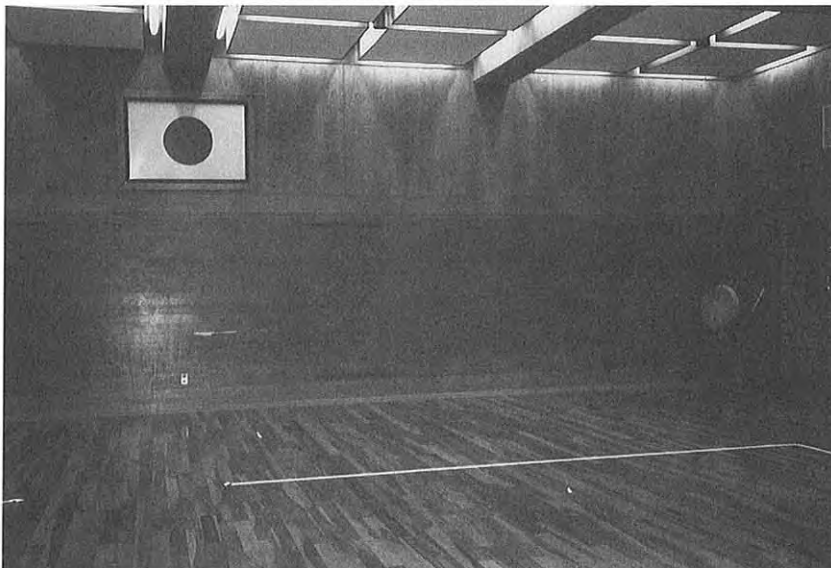
どうぞ末長く、ご指導の程を……。

美作に 夢を抱き

部長 小川 温
監督 山形良治
主将 福本知子
部員 柏 朋枝
高津美和
三村めぐみ
久米由紀恵
坂 紀子



よろしくお願いします



津山総合体育館道場

戦士たち

山口大学剣道小唄

一、夜のちまたに黒胴かつぎ
稽古帰りに飲む酒は
なぜか知らねど今宵は苦し
かわいあの娘が忘らりよか
忘らりよか

二、酒は飲んでも忘れはせぬぞ
明日の試合の決め技は
片手横面諸手の突きで
肉を切らせて骨を断つ
骨を断つ

三、伊達にはとらぬ手慣れの竹刀
一度とつたら面を打つ
桜花散る並木の道で
恋の未練がなぜ切れぬ
なぜ切れぬ



練習の後で



基本稽古中

●寒稽古

時期は真冬の月中旬あたりから一週間ばかり行なわれ、時間は午前六時四五分〜八時までの一時間ぐらい。稽古内容は普段の稽古よりも軽いのだがとにかく寒い。まず起きて稽古に行くわけだが、それまでにかなり身体が冷える。また武道場に着くと当然着替えるわけだが、照明がついていず、道着が氷のように冷たく、まさに人生不幸のまったただなかつたという感じがする。道着が肌になじんでこれから稽古かと体育館に入ると、足の感覚がなくなるほど床板が、冷たい。キャンパスライフとはこんなものかと、馬鹿馬鹿しく思いながら猿のように足を懸命に暖める。そうこうしているうちに練習が始まるわけだが、とにかく自分の体を暖めようと必死にやる。そうするうち体が暖まってくるとなんともいえない爽快感がこみ上げてくる。最終日は豚汁を食べてめでたしめでたしと終わる。これが我が部の寒稽古である。

●合宿

合宿は春と夏の年二回ある。両方とも五日間あるのだが、五日間は、短いようで相当長くきつものである。特に夏は昼夜通しての暑さのために倒れる者も出る。しかし、この二回の合宿で得られるものは大きく、大変重要な年中行事のひとつである

●七夕稽古

赤い剣ジャン、翔け

部長 渡辺 正
 師範 紙本 栄一
 主将 冨田 真司
 工学部主将 法島 義
 女子部主将 松尾 千恵
 副主将 佐々木 孝
 〃 上田 宏史
 主務 神徳 直也
 中四幹事 松井 研心
 〃 奥田 晃子



部旗「剣心一如」



部誌「剣群」第24号

七夕稽古とは、前期の練習のしめくりに行なわれる楽しくもあり、きつくもある「何でもあり」の稽古のことである。また、この稽古は七夕祭りの準備におわれている学生の間では、名物になっていると聞く。

●OB会概略(序章)

山口大学剣道部の先輩方は現在、旧制山口高等学校の卒業生の方を加えると七〇〇名近くおられます。毎年一月にOB会を開き、各世代、現役生との交流を深めています。さて、今回はこのあたりで終わろうと思います。次回、継母に騙されたアントワネットが復讐のため界王界へ修行に行く所からお話しします。乞うご期待!!

●新歓

新歓という言葉がつくものには、新歓フェスティバル、新歓CMC、新歓コンパなどがあるがここでは新歓コンパについて説明しよう。このコンパは新入部員を歓迎するもので、一年生はほどほどに飲まされる。つまり、剣道部は、すばらしいのである。

●夏旅行

夏旅行とは、八月に行なわれる中四国学生剣道優勝大会が終わった後に行く部内旅行のことである。この旅行は、三年生が行き先などのすべてを決めて一年生を連れて行くもので、三年生と一年生の交流を深めるのに役立つと思っている。

武士たちの

熱き魂に乾杯！



●できたばかりでも意気込みは高い

我が剣道部は、男子六名、女子九名、合計一五名の小さな部です。できて新しいクラブではありますが、一人一人が真剣に練習に取り組んでいます。人数が少ないので、男子・女子ともに団体が組めません。しかし、個人戦では各自が練習の成果を発揮できれば、どのチームにも負けないつもりです。

「これからも勝つ気の剣道で攻めつづけたい」
「自分のもてる力のすべてを発揮したい」
「ねばり強い剣道をしたい」

「試合で勝てるよう日々練習する」
などの意気込みをもって稽古しています。

●モットーは「静と動」

我が部のモットーは、心では、「礼儀・不動・思いやり」を、剣では「気合・技・青眼一足」を。川のように「静」でありながら、滝のような「動」を兼ね備えられるように日々練習したいと考えています。

●練習は「大きく・速く・正確に」

練習は、月・火・金の週三回、午後六時から八時までの約二時間です。内容は、常に基本内を二時間、そして掛かり稽古一息で連続一〇本など。試合が近くなれば試合稽古などを行なっています。

練習の重点は、いつでも「大きく・速く・正確に」打てるようにすることです。

●年間行事は

時代を越えた

部長 岩井 正
主将 奥川 正道
副主将 石丸 一志
主務 五嶋 美奈



試合のあとに先生を囲んで



五月には新入生の歓迎会、七月、九月、一月にボーリングやカラオケなどのレクリエーション、一月に新年会、そして二月には早くも送別会を迎えます。

●戦績

前に述べたように、団体を組めないのですが、人数が少なくてもよい宇部市内の大会で一般女子の部で団体三位。第四二回ウベニチ旗争奪選手権で一般男子団体に準優勝、個人二・三段の部で二位と三位を獲得しました。これからも、日々練習を重ねていきたいと思っています。